

解答

一

- 問一 1 明言 2 傷〔んで〕 3 候補 4 りちぎ 5 しょうぶん 6 もよ〔り〕
問二 イ、ウ、オ、ク

二

- 問一 A ウ 問二 A エ B イ C ア
問三 （名詞は）その言葉でなければならぬものを言い表す（から）。
問四 わたしたちの社会的な経験を集合する力をもっているため
問五 商品名を聞いたり見たりしても、何の商品がよくわからないから。
問六 イ
問七 その土地その土地の日々
問八 長い年月を経ても、木肌の美しさや白木の匂いなどがあまり風化しないアスナロの木に憧れをもつようになったから。
問九 エ
問十 始め：むりに名づ 終わり：にしてゆく

三

- 問一 ア
問二 イ
問三 父に智康を会わせること。
問四 統子が父に
問五 何でも遠慮なく話す母と会話することのほうが多いから。
問六 父が男の子をずっと欲しがっており、智康をひいきにしていることに気づかなかったこと。
問七 ウ
問八 大きく強かった父が年をとり、小さくなったと感じたから。
問九 エ
問十 息子の成長を感じられたことに加え、自分の父母に親孝行ができたという点。

解説

二

- 問八 直前の段落に井伏さんが「三百何十年もの年代を経てなお、木肌がきれいで、白木の匂いがした」「八百五十年の星霜を経た建物なのに・・・わずかの風化を見せているに過ぎない」アスナロに憧れをもつようになったことが描かれています。

三

- 問十 智康の運動会を通して、統子は息子の成長ぶりを見ることができたうえ、智康の応援をしながら久しぶりに父母との時間を持てました。これらを含めて「いい運動会だった」と思ったのだと読み取ることができます。